

筆蹟の蒐集

桑木彥雄

歐洲でロンドンの大英博物館やパリのミュゼー・デ・ザルシーヴが筆蹟オートグラフの蒐集で有名であるが、又ベルリンの国立図書館にダルムステッターザムルンゲ蒐集と称する一室がある。L・ダルムステッター（一八四六—一九二七）は、自然科学に関する浩翰なる歴史年表（一九〇八年再版）の著者である。同氏が十六世紀以降十九世紀中頃までの科学史に名のある人々の筆蹟を少くも一人につき一枚という方針で集めたのがこの蒐集である。

十年前一度私も参観したが、沢山の抽斗ひきだしに分類整理した中からコペルニクス、ケプラー、ガリレイなどの自筆の手紙やマニスクリプトの、紙やインキ及び書体の、古色著るしいものを取出して見せられ、その珍らしいのと蒐集の豊富なのとに驚いた。

東西文字の相違の為に、筆蹟に対する趣味も彼我自ら同一でない。西洋にカリグラフィなる言葉があり、書道とも訳すが、西洋の所謂能書美筆いわゆるは、銀行等の特殊な実用、又は裝飾用等を目的とし、他に特に古今の名筆を賞翫したり、又はこれを手本にしたりするようなことは西洋にはないようであるが、然ししか、前述の様に、筆蹟蒐集は西洋において中々盛んである。筆蹟蒐集家の為のハンドブック（例えばE・ウォルベの六七百頁のもの）や、特別の機関雑誌もあり、又ロンドンのマッグスやソゼラン、バーゼルのオッパーマン、其

他ベルリン、ウイーン等の古本屋等は、頗る贅沢なカタログや競売目録などを随時に発行している。

その中には、手紙、マニユスクリプト、作曲家の楽譜手稿並に所謂スタナム・ブーフ、即ち記念帖、金蘭簿の類、署名に短文など添えたのを集めたもの等を含んでいる。高価なのは手紙一枚往々千ポンドを超える。古郵便切手にも驚くべく高価なのがあり、然し夫は印刷物であるが、肉筆の手紙などは唯一無二であるから、当然かも知れぬ。

筆蹟蒐集が、歴史、伝記等の材料を与えることは云うまでもない。然し、例えば、千七百八十年某日ゲーテが室の鍵を注文したという事実は、鍵匠の領収書で確証せられるが、それは歴史的事実でも、文学的伝記的事実でもないとは、ウインデルバントが歴史哲学を論じたときに用いた例である。同様の事はゲーテ自身の手紙についても云われるであろう。然しながら、内容に歴史的価値もない、平凡な雑用に関したゲーテの手紙でも、それが確に彼の自筆で、而も良く保存せられたものなどならば、一般筆蹟蒐集家の垂涎物ならざるものであろう。

多くの蒐集家には何よりも、筆蹟を通じての筆者其人が興味の中心となり、憧憬の的となるからである。それで蒐集家は特に或一人の筆蹟を求めるもあり、又既記の様に範囲を科学者に限ったり、或は詩人文学者に限ったりする場合もある。

ゲーテ自身、筆蹟蒐集家であり、彼自ら蒐集した筆蹟類の目録を造って知友に頒つたというが、その目録には、ABC順に配列した筆者の姓名五百ばかり、その中にはシラーの様な同時代人もあるが、ダランベル、ケプラー、ライプニッツ、メランヒトン等々他国異時代多方面の人々の名が多数並べてある。又ゲーテが大哲カントの筆蹟を得て、これを送った人に慇懃に感謝した書状も見出されている。エツケルマンのゲーテ

対話にも、筆蹟蒐集に関する談話が二三ある。

多くの筆蹟を比較すれば、字体明瞭で読み易いもの、その反対なもの、種々の癖の著るしいもの等、自から筆者の個性の現れが注意せられるから、之を研究対象として、グラフィオロジーなる言葉もあり、ゲートを其一人として、之に専心した学者も少くないようであるが、結局、鑑定学、墨色判断など以上に、餘り發展はしていないようである。字体不明瞭、読み悪いもの程、偽物が造り易いと云われ、フリードリッヒ大王、女王ルイゼなどの筆蹟は判読頗る難渋の部に属するが、世に偽物が少くないと云われる。ヴォルテール、ルソーなどは明瞭読み易く、美しいと称せられる。ナポレオンのはいつも走り書きで、急がしそう、彼に於ては常に、考えが手よりも先きに走っていたのであろうと云われ、ドイツの先のカイザーには版で捺したような字体の不易さがあるが、クロンプリンツのは反対に、氣紛れさが見えるともいう。

ゲルハルト・ハウプトマンの書体は従来、時期を劃して何回か変更し、サインの頭文字のHの字、或時期には丸味を帯び、他時期のは角張っているという。シラーは多くドイツ角文字を書きゲートのは大抵ラテン字である。一グラフィオロジー大家の説に依れば、ビスマルクの手跡は、彼のかなり長い手紙に於ても、字の傾斜(平均八十五度)、大小厚薄、各行の幅、始より終まで全く一様不変であり、此の如きは彼の鉄の意志と熱血の情とを如実に示しているとのことである。

かような筆蹟珍重の風あるにより、保存されている筆蹟書簡の数は頗る多い。ケプラーの書簡が四百通、いまミュンヘンのカスパール氏の許で整理中と云う。時代も古いのによくも失われなかつたものである。カーライルの如きも莫大の数であり、ジェフレイに与えただけでも数千通あるという。然もカーライルの書簡は市価頗る高いと云われる。我国の書画に、儒者ものと称するのが比較的廉いと云われる様に、西洋のも、専

門学者のもの程、一般的需要が少く、従って市価も低いようである。

十年前、数ヶ月ベルリンに滞在中、ふと一二の店で筆蹟目録を求め、又既記国立図書館ダルムステッター蒐集の管理者シュスター氏に面会したことなどから夫等を伝聞して私の下宿へ亡父の遺蔵だといって、彼はオートグラフを売りに来た若いドイツ人などもあった。ヘンリツチ等で発行する目録は多くは最低値段を掲げた競売の目録である。文学者等のは中々手に入らないが、科学者のは手に入り易い。

兎も角かようにして、ベルリン以外でも、旅行の序に直接、又は目録によって郵便で注文したりして、科学者の筆蹟若干枚を求め得たが、その真贋に就いては、科学者のものは値段が安いので贗物は先ず無いというのと、店の信用とに依頼する外はない。それでも、ヨハン・ベルヌーイの手紙というのを、スウイスの書店の目録で見取寄せたところ、私の豫期した数学者のそれではなく、それと同姓同名同国同時代の餘り有名でない政治家であったというような失敗もあった。

手紙は、書体ばかりでなく文言に興味がある。私蔵の一枚、チャールス・ダーウインのは、今ならばタイプライターを用いる所であろうが、本文は書記が書いたらしく、唯サインと本文に一句訂正したのがダーウインの肉筆だと云うのである。多分同人書簡集にも未出版のであろう。アフリカの眠り病についてドイツの学者に与えたものらしく、宛名はないが、終りに、返事はイタリヤ(ラテン)文字で書いて呉れ、自分にはドイツ文字は読みにくい、とあった。E・マツハの手紙一通、チオルダノ・ブルノの記念像建設に就て寄附金を求められたのに対する返事で、先ず、病臥中で返事の遅れたことを詫び、次に、趣意は全然賛成だが、自分はいま恩給生活をしているから遺憾ながら応ぜられない、と、重ねて返事の延引を詫びつつ断りを述べたものであるが、何となく、恰も其時代にウイーンあたかの郊外に彼れの閑居を訪うたときのことか思出された。其

他、化学者リービッヒが娘に与えた手紙、ゲイ・リュサックがモンペリエイに、ガルレがルヴェリエに、ガスが薪屋に、ヘルムホルツが出版者に与えた手紙など十数種、何れも歴史的伝記的価値もなく、競売価値もないものであるが、兎も角、私の僅な好奇心を満足させた。

「サイン攻め」「筆蹟獲り」などの言葉もあり、筆蹟蒐集も遂に一のマニアである。既記E・ウォルベの書に依れば、十九世紀のいつ頃かの話であるが、或るフランスかドイツかの一青年が、諸種の事情、今は自殺の外ないが、死に先だつて唯一つの願望として、高名なる貴下からの慰藉の一言を恵まれないという意味の書状を歐洲の知名の人々何人かに送ったことがあった。

多くの懇切なる返信の中に、某將軍のは簡単に要領良く「死は、態々求めずとも、何れは一度人生戦場で受取るボールである。急ぐべからず」とあつたが、又或人は深く同情した長い手紙に、哲学的宗教的的人生觀世界觀を縷説し、自分の經驗を述べ、或年頃において陥り易い憂鬱症について戒め、最後に、是は七十五歳の自分の忠告である、と結んだ。

チャールズ・ディッケンスもこの青年から目ざされた一人で、青年の書状を恰も南仏旅行中に受取り、青年の境遇を痛く憐れみ、美しき自然に接すれば、心の結ばれを解くよしもあると、自家身辺を述べたようなかなり長い返事を与えたという。青年は早速是等の名家の親書を筆蹟商へ持参して金に代えたという罪の深い実話であるが、「筆蹟蒐集家」と題する一幕物の、一老人が、妻子にも手を触れさせず、天下一品として大切にしていたアウトグラフが真赤な贗物であつたという筋も、笑いに終れば喜劇である。

作曲家フォン・ウェーバーが、はか 図らずもツアルト作曲楽譜の写しを手にし、夫れがモツアルトの肉筆であると聞いて、驚いて静かにこれを机上に置き、脆いて礼拝し「モツアルトの手が触れた此の紙は仕合わせで

ある」と云ったという話などは筆蹟美談と云うべきであろう。

是れ程の感激や満足は得られなくとも、既記マツグス兄弟書店などの発行するカタログは、所謂待買目録いわゆるであろうが、その挿入した多くの美しい写真版を眺めただけで、名家の筆蹟に対する私の渴を医するに十分なものがある。

(昭和十二年三月、東京朝日新聞)

- 桑木或雄著『科学史考』（河出書房、昭和一九年）所収。
- 読みやすさのために、旧漢字は新漢字に、旧かなは新かなに変更し、適宜振り仮名をつけた。ただし、一部の漢字は旧漢字のままにした。
- PDF化には \LaTeX 2\epsilon でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。